



〇始業式講話「Boys, be ambitious」

2024年、そして3学期がスタートしました。5類となって初めての年ですが、感染症予防対策はこれまで通り自覚と他者への気遣いを持って行ってください。

気遣いと言えば、今年度の始業式以来、学校の合言葉、スローガンの「小さな挑戦、小さな気遣い、大きな志」という言葉を掲げ、校長室だよりや講話などで触れて来ました。

終業式の日、松江東高校40周年記念事業の一つとしてご講演いただいた、本校27期卒業生で、島根県議会議員である中村絢先生のお話にも、このことに通じる内容の話がありました。

「毎週特定の曜日を、自分を変える日に見よう。いつもYESで答える友達の誘いを断って、いつもより長く机に向かってみる…そんな日してほしい。」という話がありました。

「高校時代、99.9%は自分のことだけを考え行動したとしても、残り0.1%だけでも他者を思いやる気持ちを持ってもらいたい。それを少しずつ増やしていくことが社会貢献につながる。」

そんな内容の話だったと思います。

それは「小さな(自分への)挑戦」であり、「小さな(人への)気遣い」と同じだと思いました。

また、「大きな志」に込めた意味は、先生が生涯の「使命」と感じることに遭遇した出来事のお話とつながると思いました。その出来事とは、軽トラを運転する高齢のご夫婦が、正面衝突の事故でご主人が亡くなる現場を目撃したこと。事故現場には食料品や日用品が散乱していたそうです。おそらく公共交通機関がないため無理して遠方の町まで買い出しに行った帰りと思われ、状況だったそうです。この出来事で、高齢者が買い物難民にならないような住みやすい町づくりをめざし、それまでのキャリアを捨てて政治家を目指そうと決心されたとのことでした。

高校時代に確固たるビジョンや目指す将来像が見えなくても、小さな挑戦、小さな気遣いを積み重ねていけば、いつか自分にとって大きな志となる使命が見えてくるはずだと思っています。

「志望先」という言葉には「志」という言葉が入っています。「志」は、世のため、人のためという崇高な思いがその背景になっているという点で、「使命」とは同じような意味があると思っています。ちなみに、幕末に活躍した坂本龍馬のような人たちのことを「志士」と呼びました。

「志」は、自己実現の延長にある「夢」とは少し異なっているのではないのでしょうか。だから、クラーク博士は、「少年よ、大志を抱け(Boys, be ambitious)」という言葉で青年を鼓舞したのではないのでしょうか。

夢や憧れから自分の進む道や将来像を考えていきます。それは大事なことで自然なことですが、そこに努力が積み重なっていかなければ、夢が自分を隠す、悪い意味でのファッションのようになっていきます。勉強もせず、努力もせず、だから成績も上がらないのに、自分の学力とはかけ離れた進路志望やなりたい職業を語る。それは進路希望ではあっても進路志望ではないのではないのでしょうか。

ちなみに、志には人を思いやる気持ちという意味もあります。夢に向かって挑戦し努力する中で、人への気遣いも忘れないと、いつか使命ともいえるべき大きな志に出会う時が来るはずですよ。

1月は行く。2月は逃げる。3月は去ると言います。一日一日を大切にしてください。

